

各関係機関団体の長
各病虫害防除員)殿

福岡県病虫害防除所長

海外飛来性害虫の発生状況及び発生パターン図

8月2半旬に実施した巡回調査の結果、ウンカ類が7月12～15日にも飛来したと考えられましたので、発生状況及び発生パターン図をお知らせいたします。

技術情報第2号

1 作物名 水稻

2 病虫害名 トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ

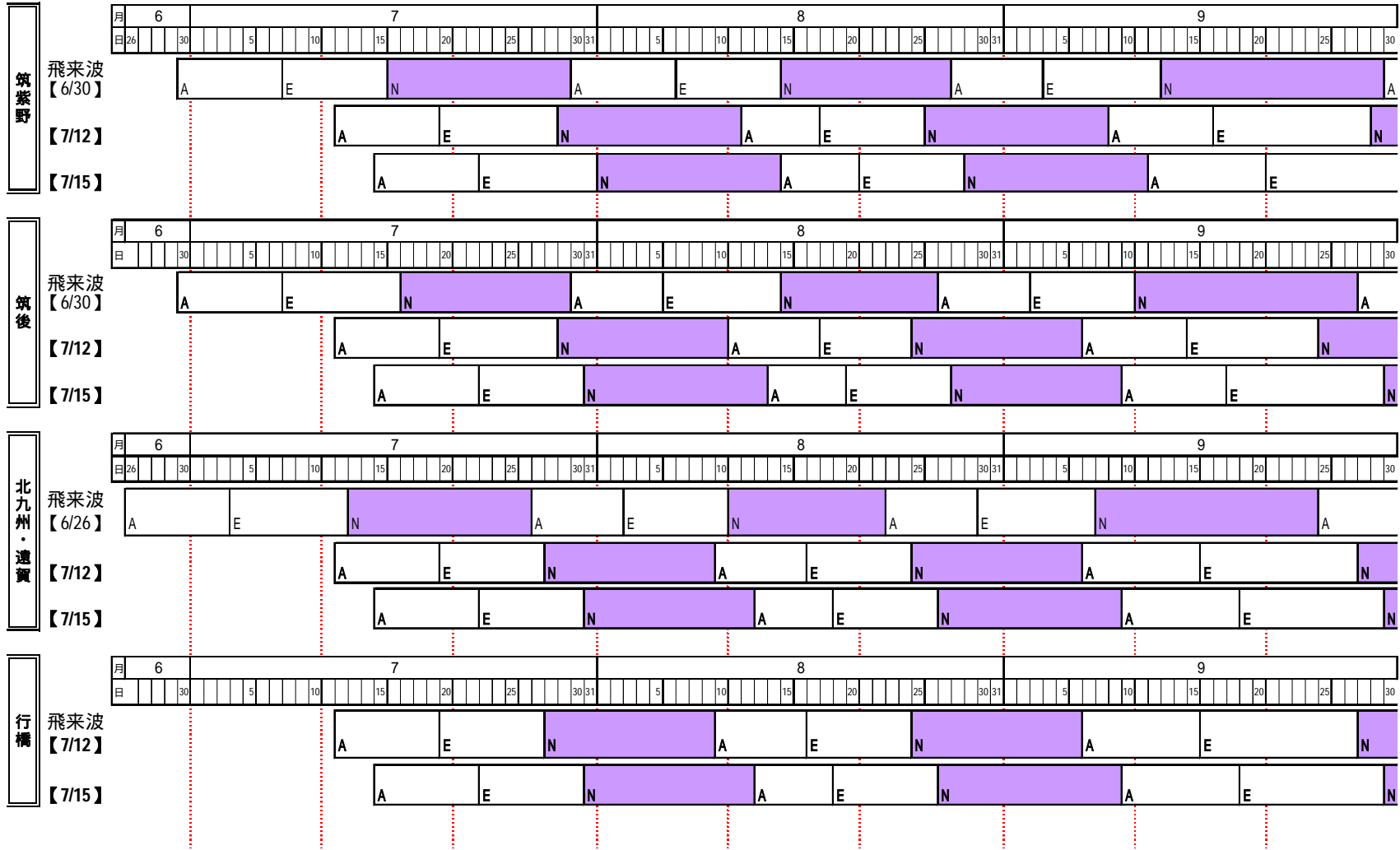
3 発生状況

- (1) トビイロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均1.4頭(平成1.0頭、前年0.4頭)で、平成よりやや多く、前年より多い。発生圃場率は57.1%(平成37.6%、前年30.8%)で、平成・前年より高い。
- (2) セジロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均134.3頭(平成22.2頭、前年36.8頭)で、平成・前年より多く、発生圃場率は100.0%(平成84.8%、前年100.0%)で平成よりやや高く、前年並みである。
- (3) コブノメイガの食害株数は平均18.2%(平成13.6%、前年3.4%)、食害葉率は0.5%(平成0.8%、前年0.2%)で、平成並、前年よりやや多い。30㎡当たり払い出し成虫数は1.8頭(平成14.7頭、前年2.0頭)と、平成より少なく、前年並であった。
- (4) 8月2半旬調査の結果、幼虫密度は、トビイロウンカは、7月5半旬が0.03頭/株、8月2半旬は0.11頭/株で、セジロウンカは7月5半旬が5.2頭/株、8月2半旬は9.2頭/株であった。両種とも中老齢幼虫の割合が高く(77.8%及び60.4%)、8月2半旬の密度が高かったことから、主要飛来は7月12～15日頃と推定された。

4 防除上注意すべき事項

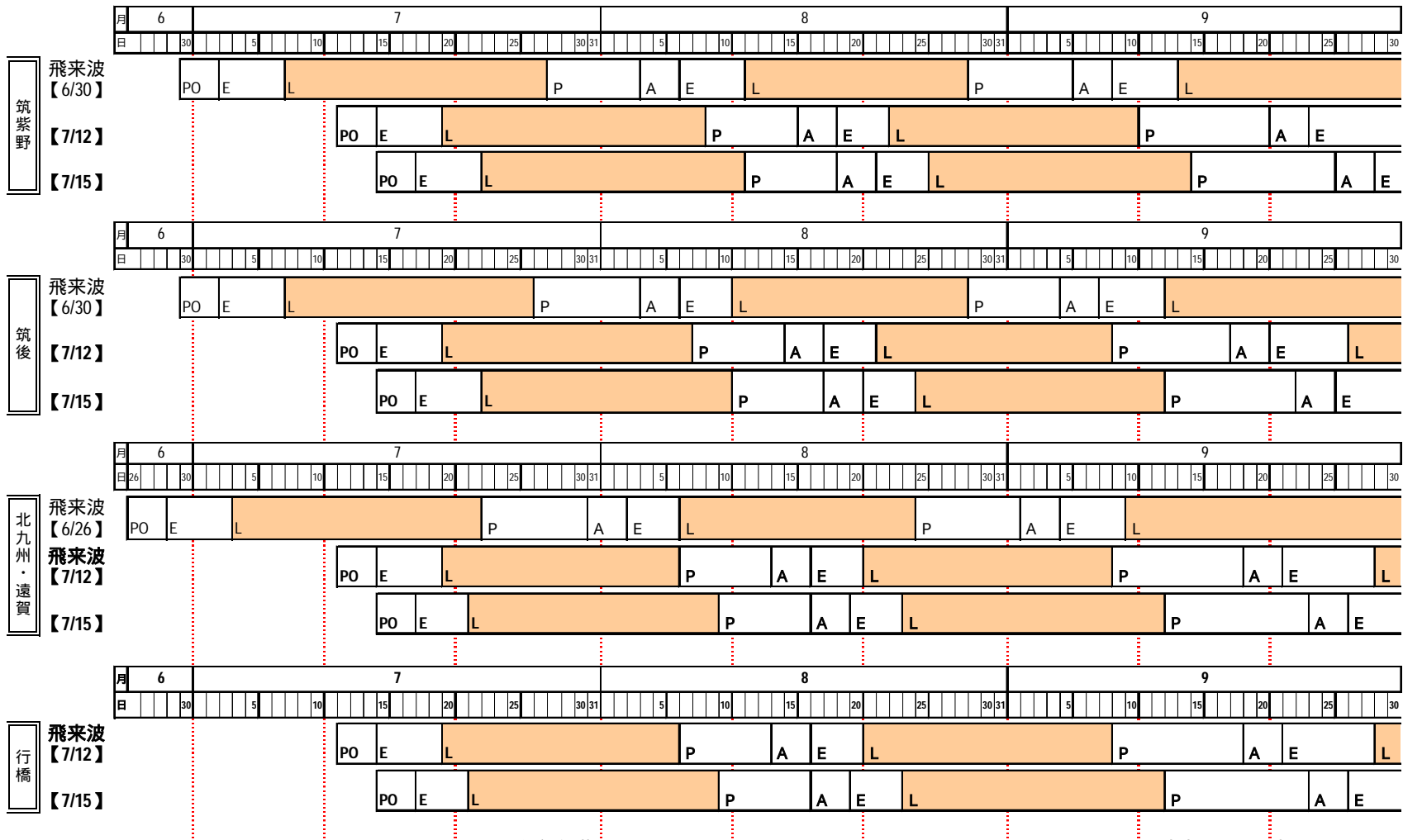
- (1) 本年は飛来回数が多く、主要飛来の時期が地域により異なる場合があるので、圃場における発生状況を把握し、適期に防除を行う。
- (2) トビイロウンカの飛来量は少ないが、本種は低密度であっても増殖率が高いため、今後の発生状況に注意する。
なお、本種の発生密度については、地域やほ場毎に異なるので、それぞれのほ場における発生状況を必ず確認する。
- (3) 無人ヘリコプターによる防除を実施する場合は、気温が高くなる前の早朝に実施する。気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化して防除効果が著しく低下する可能性がある。
- (4) 6月20日頃移植の水稻で、育苗箱薬剤が施用された水田においてもウンカ類の発生が見られるので、防除所が発表する今後の情報に注意し、適期防除を行う。

図 飛来に基づくトビイロウンカ発生予想パターン図 (平成22年8月10日現在)



- (1) 发育段階 A: 成虫 E: 卵 N: 幼虫
- (2) 気温は筑紫野:大宰府、筑後:大牟田、北九州・遠賀及び行橋:行橋のアメダスの平均気温を使用した。
- (3) 平均気温は8月9日までは本年のデータ、8月10日以降は平年値

図 飛来に基づくコブノメイガ発生予想パターン図 (平成22年8月10日現在)



- (注) (1) 发育段階 PO:産卵前期間 A:成虫 E:卵 L:幼虫 P:蛹
 (2) 気温は筑紫野:大宰府、筑後:大牟田、行橋及び北九州・遠賀:行橋のアメダスの平均気温を使用
 (3) 平均気温は8月9日までは本年のデータ、8月10日以降は平年値
 (4) コブノメイガはウンカ類と同時期に飛来したと推定